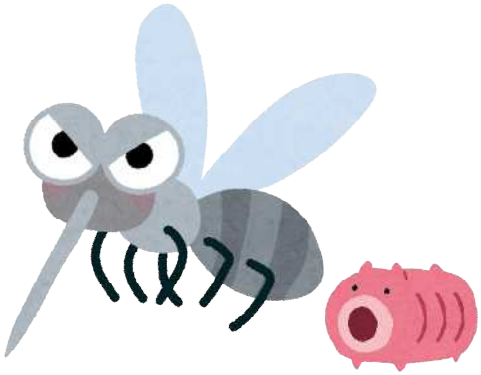

城南家保ニュースR6．７月号

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042　人吉市蟹作町 1237-1

TEL：0966-22-3814

E-mail：jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

県内でチュウザン病による子牛が確認されました

県内の肉用牛農場で、今年の春に生まれた子牛が出生直後から歩様異常等の神経症状を呈し、生後５日齢で死亡しました。

病性鑑定を実施したところ、剖検では大脳の大部分が欠損しており、病理検査では大脳の石灰沈着、髄膜炎、誤嚥性肺炎が認められ、ウイルス検査ではチュウザンウイルスの抗体が検出され、**チュウザン病による異常産**であると診断されました。また、細菌検査では主要臓器から大腸菌が分離され、牛大腸菌症とも診断されました。

チュウザン病は、チュウザン（カスバ）ウイルスの妊娠母獣への感染による先天異常子の分娩を主徴とする牛、水牛、山羊の**届出伝染病**です。

チュウザン病による先天異常子は虚弱や自力哺乳不能、起立困難、視力障害を示すことが多いのですが、アカバネ病やアイノウイルス感染症と異なり**外貌上の変化はほとんどみられない**とされています。

また、四肢の回転や後方への反り返りなど、不随意運動がみられることがあり、これらの症状を示す先天異常子には、**大脳の欠損や小脳の形成不全**が認められています。

家畜疾病図鑑 Web のホームページより

1985-86 年の流行では、約 2,400 頭の発生が報告され、その後も散発的に起こっています。チュウザンウイルスと同じグループの**ディアギュラウイルス**も、同様の症状を起こすことが知られています。

ウイルスは、ヌカカ（体長１～３ミリの吸血昆虫）によって媒介されます。先天異常子の分娩は、伝播が起こった年の晩秋から翌春にかけて認められます。

県内におけるアルボウイルスのサーベイランスについて

チュウザン病を含めた吸血性節足動物によって哺乳動物へと媒介されるウイルスをアルボウイルスと総称し、アカバネウイルスやイバラキウイルス、ピートンウイルス等異常産を起こすウイルスが多く知られています。

熊本県ではアルボウイルスによる異常産発生を予察するために、初めて夏を迎える若い牛を継続的に採血し、これらウイルスの流行を毎年調査（サーベイランス）しており、城南家畜保健衛生所管内でも3戸の農家にご協力いただいて調査を行っています。

昨年（令和5年）の検査では、11月にチュウザンウイルスもしくはそれに近縁なティアギュラウイルスが県内へ侵入していたことが確認されていました。

また、昨年9月以降に、イバラキウイルスと近縁な流行性出血病ウイルス6型と呼ばれるアルボウイルスも県内に広く侵入していることが確認されています。

アルボウイルスは異常産を引き起こすだけでなく、夏場の流行時期に流産を引き起こすこともあり、乳用牛、肉用牛に関わらず流行の状況によっては、大きな経済的被害を与えます。また、その年にどんなウイルスが流行するかは全く分かりませんし、ワクチンでは防ぎきれないウイルスが流行することもあります。

ウイルスを媒介するヌカカ対策は困難を伴いますが、吸血が活発となる夕方～朝の間だけでも風速２m／秒以上で扇風機を運転したり、農場内の整理整頓や牛舎周辺の除草、ぬかるみを作らないよう心がけ、適切な消毒薬や殺虫剤を散布するなど、吸血昆虫を含めた衛生害虫の発生予防を心がけましょう。

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	台湾	家きん	令和6年5月21日
アフリカ豚熱（ASF）		韓国	豚	令和6年6月15日
			野生いのしし（19）	令和6年4月～5月

令和6年(2024年)7月1日現在

家畜防疫員のヒトコト

今回のテーマであるアルボウイルスを媒介する吸血昆虫は、病気を媒介するだけでなく、我々人間の生活も不快にさせます。ただでさえ寝苦しい夜に少しでも安眠できるように私も対策を心がけています！（T・N）